

## 段戸山 春



ここで作った薪と炭の販売を始めます。詳しくは3面をご覧ください。

# とまっぴ

新しき杣人たちの羅針盤  
第13号

平成20年5月15日

NPO法人 杣の杜学舎

〒501-3781 美濃市片知 1109-4

森づくり片知支援センター内

TEL&FAX 0575-37-2115

URL:<http://www.somanomori.or.jp/>

e-mail: [info@somanomori.or.jp](mailto:info@somanomori.or.jp)



### 実録！ 森林インストラクター

#### 合格への“長き”道のり

杣の杜学舎 山中 亘

(おや？いつもより封筒の厚みが違うぞ。)

それは昨年の十一月初旬のことでした。いつもの様に仕事から帰って、ポストの中を探ると、一通の封筒が入っていました。その封筒には、その年の九月に受けた森林インストラクター筆記試験の結果が入っているはずですが、実を言いますと、僕が森林インストラクター筆記試験を受けるのは、恥ずかしながら、今回で5回目。毎回十一月初旬頃、結果が通知されるのですが、それまでの通知封筒は薄いものでしたので、今回厚みが違うということとはひよとして…。想像した通り、筆記試験の合格通知書が入っていました。自分の中で試験を終えての感触は今回も芳しいものではなかったのですが、まただめだろうなあと思っておりました。ですから、合格通知書を見た時も正直な所、うれしいというよりも、「本当に合格できたのかなあ、信じられない、お情けでもあつ

たのでは」という心境でした(笑)。とはいえ、とりあえず受かったということではほっとしたことも事実です。

思い起こせば、森林インストラクター筆記試験にトライしたのが五年前。杣の杜学舎で山仕事を始めた年です。森林インストラクター試験を受けようと思ったのは、資格を持つことで仕事の幅が広がるのではと思ったこと、何より試験勉強に取り組むことで自然に関する様々な知識を得ることができ、自分のスキルアップに繋がるだろうと考えたわけでした。また、杣の杜学舎の専任スタッフである鈴木さん、小泉さんは既に資格を取得していたこと、その鈴木さんの勧めもありましたので、チャレンジしてみようということになりました。

最初の年は勉強を始めたのが、遅かったこともあり、森林インストラクター試験の内容は一体どんなものか、どんな感じで出題されるのか探るつもり(少々不謹慎かもしれませんが)だめ元、小手調べ的に受けてみました。一応、鈴木さんにもらった参考書や過去問題集で空いた時間にちよこちよこ勉強はしていましたが、しっかりと勉強したとは言えないものだったと思います。ただ、その割には答案用紙に結溝書けましたので、これはもつとしっかりと勉強すれば、合格もそう難しくはないのではないかと感じました。(今思えば、樂觀しておりました。お恥ずかしい。結果通知は点数までは教えてくれないので、書けたといつても、全然だめだったのかもしれないですね。)最初の年はそんな感じで結果的にはとりあえず受けてみたというだけになってしまいました。

翌年は前年の経験を活かし、長期的計画で地道

に勉強をしましたと言いたいところなのですが、(恥を晒すことになりませんが)試験が近づいてきた夏頃ようやく勉強を始めたように記憶しています。おまけにその夏は非常に暑く、現場作業もみっちりありましたので、勉強もはかどつたものとはなりませんでした。試験本番では答を導き出せない問題も多く、時間も足りない有り様で、当然結果は惨敗、筆記試験四分野は一つも合格することなく終わりました。(実は筆記試験は「林業」「森林内の野外活動」「森林」「安全及び教育」の四分野があり、六割以上の正答で合格となるのです。)

三年目こそ少しずつでもよいので、地道に二つと長期にわたつた勉強をと意気込みましたが、私、元来そういうことが苦手な性格、たまには勉強するものの、継続的にはできませんでした。これではいかんと思い、夏少し前、最新の過去問題集と養成講習教科書選集を取り寄せました。そして、過去の問題から教科書選集文章中の該当する部分に印をしながら、問題集中心に取り組みました。さらに、再び四分野全滅だけは避けたいと思い、「林業」に重きを置いて、その次に「安全及び教育」と、ある程度分野を絞つた勉強をしていました。で、結果はというと、かなり勉強した「林業」だけは受かつておりました。一分野だけとはいえ合格通知には嬉しい思いが込み上げてきましたし、この勉強方法で他の分野もいける気がしていました。

四年目も同様な勉強方法をとりましたが、相変わらず地道な二つ勉強はできていませんでした。実際試験を受けてみると、重点的に勉強した分野は新問題が多く、覚えてきた箇所はあまり出題さ

れていなかった為、自分でも合格ラインに達していないと感じていました。しかし、他は意外に答が書けたように思えたので、残り三分野全ては合格していかないかもしれないけれど、一つ、二つは受かつているかもと期待したのです。ところが、結果通知は最悪、残り三分野再び全滅という厳しいものでした。

というわけで、五年目は追い込まれた状態となつてしまいました。というのも、受かつた分野には有効期間があり、受かつた年を含め三年間なのです。つまり、この年に残り三分野全て受からないと、せっかく受かつている「林業」もだめになってしまうわけです。さすがにこの年は、いつもより早く勉強を始めました。もつたないなどといっておれず、再び最新の過去問題集をも購入し、取り組みました。試験の感触は冒頭に書いたように芳しいものではありませんでした。しかし、結果は最初の段落の通りで、よくぞ三分野全て一気に受かつたものだともそう思います。

しかし、森林インストラクターになるにはまだ面接と実技試験の二次試験に合格する必要があります。十一月下旬、長期の林業研修を受けている最中ではありましたが、東京まで試験を受けに行きました。試験の方は、実技で時間オーバーはありませんでしたが、よほど大きなミスをしないうり、大抵は受かるようで、十二月上旬、合格通知書が送られてきました。晴れて森林インストラクターになつたわけです。

過去に森林インストラクターの方による自然観察会に参加したことがあります。その説明される知識の豊富さには驚かされたものでした。言い方が

失礼かもしれませんが、何かマニアックとも思える程に細かな知識で参加者に説明されていた姿にはある種の敬服を感じたものです。僕はまだまだそんなレベルには程遠いので、これからも勉強、勉強ですね。また、僕は知識があつても、「しやべり」が得意ではありませんので、こちらにも訓練しなくてはなりません。まだまだ森林インストラクターとしては資格を持つていだけのレベルですが、自然のおもしろさ、楽しさ、厳しさを色々な人に伝えたいという思いはやはりありますので、少しずつでも、新しい友人達からでも伝えていければと思います。そして、自然に興味を持つてもらい、環境問題に関心のある人を増やせればと思います。とりあえず、この四月には友人達と山菜採りをした時に幾つかの樹木説明をし、ちよつぱり森林インストラクターらしいことをしたのでした。



こんな場面が増えるかな？



## ネットショップ「段戸山小商い本舗」開店

昨年度より、開店準備を進めておりました、薪と炭のネットショップ「段戸山(だんどやま)小商い本舗」を4月8日にオープンしました。

愛知県設楽町にある「三河炭やき塾」とのコラボレーションで、薪と炭を中心とした商品を扱っています。「炭焼きと間伐で森を救う。」をコンセプトに運営して行きます。ネットショップへは杣の杜学舎のサイトから又は「段戸山小商い本舗」で検索してみてください。「利用をお待ちしております。」

(鈴木 章)

## これからは杣人と商人の二足の草鞋

月一回程度の段戸での薪割りから最終的にモールへの出店に至った経緯はさておき、約一年の準備期間を経てネットショップ開店となりました。初期投資を抑えたダメモトのスタートから、素人ながら事業成果を出すべく商品管理からネット運営等に頭を悩ますなかで形が整った、同時にスタッフの意識変化もあつたと思います。

しかし、杣人と商人、この二項対立にいかにか折り合いをつけるか、少なくとも私には保留課題であり、NPO法人「杣の杜学舎」としても検討すべき時が来るかもしれません。

とはいっても、の興味深くも楽しいことが多い。ときに釣りや山菜採りを兼ねることだけでなく、薪割り作業や事業化プロセスさえも……。

さらに片道二時間弱の三河のド田舎、段戸にナ

ニがあるかと言えば、私はそこに日本の原風景を見いだし、そこに根ざした齋藤さん一家がいて、そこに集う人達がいる、これらの総体がある種の価値あるものに映るのです。

薪を作り、売る事は手段かもしれない、むしろ「段戸山小商い本舗」は段戸そのものを売る事業、齋藤さんの言によれば「人々の訪れがなければ過疎山の再生はない」しかし正しいことだけを主張しても、人は集まってこない。私たちはこんな反省を胸に、ふるさとの過疎山に挑戦を続けている。〜という想いがあります。

今後、間伐材の有効利用をめざした商品開発も念頭に、充実したショップにしたいと考えています。まずは開店のご案内とともに、皆様のご来店お待ち申し上げておりますので、よろしく願ひ申し上げます。(栃川 孝弘)

DANDOSAN KOAKINAIHONPO  
段戸山小商い本舗

URL <http://www.somanomori.or.jp/koakinai.htm>



薪(ナラ材) 鋭意製作中

## 片知川レポート

### 私のカーティスクリーク

徳山ダムの試験放流が始まりましたが、昨年初夏に一度だけの釣行にでかけた時すでに60%の貯水率、目指した支流には入れませんでした。写真は10年ほど毎年のように春先に訪れていた磯谷の2年前の景で、今はダムの底にあります。

年の30回以上の釣りをしていた私にはお気に入り、の渓は今でもいくつかありますが、フライの世界で使われるカーティスクリーク(カーティス君の渓自分だけの秘めた川)であり、その時期でなければ楽しめない唯一の渓でした。

入り易い、当然魚も少ない、で春先限定となるわけですが、にもかかわらずこの渓をカーティスクリークと称するのはアングラー(釣り人)を満足させる在来魚、残雪、獣の痕跡等の要素が揃っていた、しかし最大の理由は通う度に目にした自然の回復力(顕著なのが春先)から得られるリ・クリエーションだった様に思えます。

最初の釣行は幻滅そのもの、廃村から10年程経つて作業道がつき川筋は本来の半分以下、次の釣行は数年後でしたが、すでに道は消え、以後自然更新を繰り返す磯谷を歩く過程は地縁(母は徳山出身)とか人生を考える時でもありました。

失つてから気づく……の類から一転、時を同じくして飛騨の高原水系蒲田川でキャッチ&リリース区間が設けられた。温泉の影響で水温が高く早春から尺岩魚が出ることもあり、多くのファンに支持さ



ダムに沈んだ「カーティスクリーク」

れているだけに将来を見越して漁協が積極的に動いたそうです。朗報ですがもう少し早くてもと思いつつ、ところどころのコラム片知川レポートのはずですが今年度は年券を買ったこともなく、来年までお預けとなりそうですのでおことわりまで。

(アングラマー 栃川 孝弘)

【活動報告】 2007年(冬)～2008年(春)

●間伐事業

昨秋の保木脇・口野々での間伐説明会の実施から当地区での間伐地の取りまとめ、間伐実施の実施を進めています。2007年度の年間総間伐量も予定面積の60%を上回る実施実績を上げることができました。2008年度も引き続き当地区の間伐を実施していきます。

●第6回 みの森林塾(十一月十七日(土))

みの森林塾も今回で最終回、恒例の炭焼きで最終回を楽しみました。炭焼きに五平餅とトン汁で和気あいあいで1年の活動を締めくくりました。



炭窯の準備をする参加者

●林業ITーターン支援講座 講師

(十二月八日(土)・九日(日))

岐阜県が主催する「林業ITーターン支援講習」の講師を務めました。今年度2回目の開催になりますが、県内外から10名の参加者があり、高性能林業機械を使った林業現場の見学やチェンソーによる間伐体験を行いました。プロとしての林業の仕事の厳しさを垣間見た参加者もいたように思います。

●ヘリコプターによる集材現場にて作業

関市洞戸の桑原木材工業の実施するヘリコプター集材現場で、集材作業を行いました。ヘリコプター集材は、林道・作業

道が必要とせず、林道をかく乱することなく効率よく出材が可能です。急峻な林地の多い岐阜県では有効な集材方法の一つです。一日で150立方メートル以



ヘリコプター集材

上出材が可能ですから、ヘリコプターのコストと原木価値で採算性が決まります。5月下旬に残った現場の作業をする予定です。

●「美濃市森の環境づくり推進委員会」発足

美濃市森林管理委員会設立準備委員として設立準備を進めてまいりました「美濃市森の環境づくり推進委員会」が今年度より発足することになりました。「放置人工林対策部会」と「里山森林景観整備部会」が置かれ、杜学舎も事務局として委員会が機能することに協力していきます。

●「美濃市森林ボランティアクラブ」発足

3カ年実施してきました「みの森林塾」のOBを中心に「美濃市森林ボランティアクラブ」が発足しました。市民参加による森づくりの第一歩が踏み出されました。活躍を大いに期待したいと思います。

●「片知・瓢の森づくり 情報交流会」発足

美濃市片知の瓢(ふくべ)の森は地域の財産区有林が多くを占め、その多くが昭和30年代に当時の営林署・森林開発公団と分収造林契約が結ばれています。その分収契約の契約期限が迫っており、契約どおり伐採が進めば、山が一度に丸裸になる危険があります。これを回避し、より良い森の環境を考えるために情報交流会が発足しました。地元でも山に対する関心は薄く、誰が将来にわたって地域の森を管理するのかを考える時期に来ています。地元の林業NPOとして地域の力になれるよう支援していききたいと思います。

(鈴木章)